



シリーズ 今、気づき、じんけん

共に生きる 13

性別にとらわれず 認め合える社会へ

世界共通の目標である持続可能な開発目標・SDGsの1つにジェンダー（※）平等の実現があります。ジェンダー研究者の寄藤晶子さんに聞きました。

性別による格差は残っている

私の講義を受けている女性の学生のうち、毎年1人、2人は家事の手伝いや家族の介護などで講義を休みます。話を聞くと、兄弟がいても女性というだけで役割を担わされているんです。新型コロナの流行で、影響を受けたのは小売業界や航空業界など女性の多い職場。さらに別の職場への出向や離職を強いられることは女性が多いように感じます。女子学生の就職にも影響は出ていますね。家族や社会からの意識には、まだ女性に対する役割の押し付けや格差が残っています。

仕組みから変える工夫を

今までの意識を変えるのは、なかなか難し

講義では書籍からテーマを取り上げたり、映画を鑑賞したりしてジェンダーを考えます



寄藤晶子さん

福岡女学院大学人文学部現代文化学科の准教授。文化地理学やジェンダー研究を担当。久留米市男女平等政策審議会の委員を務める。昭和49（1974）年生まれ

いですが、この2、3年で学生たちの認識はジェンダーによる差別は間違いだという風潮になっていると実感します。男女混合名簿や選択制の学生服の導入など、教育の中での仕組みづくりが進んでいることで、学生たちはジェンダー平等に対する気付きを得ているんだと思います。この気付きを広げるためには、地域の中でいろんな仕組みに関心を持ち、工夫して変えていくことが大切です。

自分のバイアスを認識する

誰もが、生活してきた環境などで自分の中にバイアス（偏見）があります。大切なのは、一人一人がこれを自覚し、絶えず自分を振り返ること。そしていろんな人が議論し合える環境や、受け入れていく環境を作る必要があります。そのための第一歩は、無意識のうちに刷り込まれた偏見に気づくこと。例えば男は青色、女は赤色とイメージするのは無意識の偏見です。男らしい、女らしいにとらわれず、好きなものを気兼ねなく選べるような社会の土壌ができていくと良いと思います。さまざまな形で大丈夫と言い合い、認め合える部分をたくさん作っていくと、もっとみんなが生きやすい社会になっていくと思います。

◎男女平等政策課

（☎0942・30・9044、FAX 0942・30・9703）

※ジェンダー：「男性だから、女性だから」というような社会的、文化的につくられた性差のこと

首輪や迷子札を装着しましょう



普段から 避難の準備や訓練を

ペットも避難でパニックに

災害などでペットを連れて避難すると、ペットも突然の避難にパニックとなり、いつもとは違う行動をすることがあります。普段からしつけやケージに入る訓練、ワクチン接種などの健康管理、ペットのための避難用品の準備が重要です。ペットが迷子にならないよ

災害時の同伴避難

うに、飼い主が分かる首輪や迷子札、マイクロチップを装着してください。飼い犬には、狂犬病予防法により鑑札や予防注射済票の装着が義務付けられています。日頃からペットの安全と健康を守り避難に備えておくことが、ほかの避難者への迷惑にならないことにもつながります。

本年度から、ペットと屋内避難ができる避難所をサイクルファミリパークわんぱく童夢館（御井町）に開設しています。ケージに入らない大型の動物や危険な特定動物は受け入れできません。
◎動物管理センター（☎0942・30・1500、FAX 0942・30・1788）

ペットの安全と健康を守る飼い方



秋の高良山を 歩いて楽しむ

九州オルレ（久留米・高良山コース）



オルレとは、「家に続く小道」という意味で、韓国・済州島から始まったトレッキングコースの総称になりました。その姉妹版が九州オルレです。現在、20コースが認定されています。コース上に目の青と赤のリボンや進路を指す木製の矢印があり、迷わずにゴールを目指せます。

久留米・高良山コースは、JR久留米大学前駅をスタートし、久留米森林つっじ公園や高良大社、王子池などを巡る全長約8・6km。石階段が続く高良大社の参道や森の中の遊歩道、雲仙普賢岳まで見渡せる高台からの眺望などが見どころです。久留米つっじや地域の皆さんが手入れをしている桜、アジサイなど季節の花々を楽しめるのも魅力。紅葉が見ごろとなる秋



自然を感じながら森の中の参道を歩きます

は、オルレに最適です。高良山の歴史や自然を解説しながら案内するオルレガイド（有料）もおすすめ。高良山を知り尽くしたガイドが楽しく案内します。詳しくは、問い合わせ先まで。
◎観光・国際課（☎0942・30・9137、FAX 0942・30・9707）